

真菌センター

2002年4月1日 第

1号

千葉大学真菌医学研究センター

は ・ し ・ め ・ に

千葉大学真菌医学研究センターは、全国共同利用研究施設として、病原真菌の研究と真菌による感染症および中毒症の成因並びに制圧に関する研究を行い、かつ、国立大学の教員その他の者で、この分野の研究に従事する者の利用に供することを目的に設立されました。

センターは、2大研究部門からなり、病原真菌研究部門は真菌感染分野、系統・化学分野および平成13年度に新たに設置された真菌資源開発分野の3分野と生態分野（客員3種）から、また分子機能研究部門は機能形態分野、高分子活性分野の2分野と活性応答分野（客員2種）で構成されています。

本センターは国内はもとより、海外の研究者との交流を積極的に行い、共同研究を活発に展開しているほか、8,000株以上の病原真菌・放線菌を研究開発用の遺伝資源として保存活用しており、世界的規模で貢献するなど、病原真菌・放線菌の世界の中心的研究機関となることを目的に研究を進めています。

本センターはこれまで、毎年、真菌医学研究センター報告を作成して、研究活動、業績、人事について報告し、さらに2年毎にセンター概要を作成してセンター紹介を進めてきましたが、さらに研究や体制の変化に柔軟に対応するために、センターニュースを発行することになりました。本ニュースでは特に真菌に関するトピック的な研究を「目で見える真菌と真菌症」シリーズとして解説すると同時に、センターで行われている特徴ある研究を積極的に紹介して行く予定です。



NEWS

1) 真菌資源開発分野の設置

平成13年度に真菌資源開発分野が新設され、教授のポストの増加と助手の助教授への振替が認められ、新分野の教授および助教授に福島和貴および横山耕治がそれぞれ任命された。

2) 科学技術振興調整費

平成13年度には文部科学省の科学技術振興調整費の「病原真菌・放線菌の遺伝資源の国際的拠点形成のための基盤整備」（代表者：西村センター長、3年間、年間約1億円）が認められた。本プロジェクトには、国立遺伝学研究所および理化学研究所にも参加していただき、共同研究が開始されている。